

1 はじめに

小規模校では、学習時間において、多様な考えに触れたり互いに意見を出し合ったり考えを練り合ったりする活動がなかなかできにくいのが現状である。また、遊びにおいても単調になりがちである。そこで、近隣校と連携をして交流学習会を実施することで、多様な人と関わりながら学習したり遊んだりすることができ、児童の豊かな人間性や社会性を育むことができると考える。特に、学習においては、友達のいろいろな意見や考えに触れながら話し合ったり感想を交流したりすることで言語活動の充実を図ることができる。

本校では、6年前から近隣校と連携して交流学習会を行っている。この交流学習会での言語活動の充実に向けた取組について簡単に紹介する。

2 交流学習会の目的

各学年、言語活動の充実を図る授業を工夫する。

多人数による学習を構成することにより、少人数学級や複式学級の授業では経験できにくい練り合い、協力し合い、そして、競い合う場を設定した学習を展開させる。

たくさんの児童と交流を深めるとともに、多様な遊びを経験させる。

教員同士で指導法を学び合うとともに、相互の交流を図る。

3 交流学習会の実施方法

年度当初に各校の年間行事予定もとに、実施する日を決める。(教務主任が行う。)
交通手段は町のバスを使用する。

原則として、全校児童が同じ日に実施。集会等だけでなく、教科の授業も行う。

複式学級を解体して学年ごとに交流する場合もあり、学校同士の協力体制が整っている。

< 単学級、単学年での実施例 >

- ・ 2年生 生活科(町探検)
- ・ 3年生 社会科(中心部の施設(町役場など)見学)
- ・ 4年生 社会科(郊外の施設(ゴミ処理場など)見学)
- ・ 6年生 社会科(租税教室)

2か月に1回の目安で実施。

- ・ 年度初めの交流学習会の日は、全校集会を開き、互いの校歌を紹介し合ったり交流学習会の目当てを発表し合ったりする。(15分間程度)
- ・ 年度最後の交流学習会の日は、各学級で1年間の思い出を発表し合う。(終わりの会)

1回の時間は、3校時から5校時まで、あるいは、3校時から6校時までなど、弾力的に実施する。

- ・ 給食時間、昼休みの時間、掃除の時間は必ず含めるようにする。

授業の担当者や内容については、電話等で事前に話し合って準備をしておく。一方の学校の教員に偏ることがないように分担し、児童の評価も互いに交換するようにしている。

集会活動やクラブ活動を合同で行う場合もある。

4 交流学習会の実際

4年生 体育科 「ドッジボール」



(多人数でのゲーム.....最後に感想発表)

4年生 道徳 「梅の木村の四人兄弟」



(意見発表.....いろいろな考えに触れる)

読書集会 「読書クイズ」



(図書委員会として係を一緒に担当)

2年生 国語科 「お話紹介」



(ペアになって紹介し合う.....
順番にたくさんの友達と紹介し合う)

休み時間・昼休み



(学年を越え多人数で遊ぶ.....
教師も遊びに参加)

5 交流学習会の成果

回数を重ねることで、学習の雰囲気や多人数での学習の仕方にも次第に慣れ、友達と関わりながら学習を進めることができるようになってきた。

授業を組み立てる際に、学習形態（グループ学習・ペア学習・一斉指導）を意図的に位置付けることで、様々な学習の仕方に触れ、友達の発表の仕方や態度に刺激を与えることができる。

意見交流では、言語活動の充実が見られ、多様な考えに触れ、広げることができた。

体育科では、多人数で行うゲーム的な活動が効果的で、その楽しさやチームとしてのプレーの大切さを学ぶことができた。また、競い合うことも体験できた。

昼休み等の休み時間は、多人数で多様な遊びをすることができ、特に交流が深まった。

主に、相手校を会場に交流学習会をしているので負担を掛けているだろうが、児童相互の交流によって、それに見合うだけの成果を生み出していると思われる。相手校の協力体制がありがたい。6年間続いているのも相手校の協力があってこそだと思う。

回数を重ねることで友達が増え、ほとんどの児童が次回の交流学習会を楽しみにしている。また、集団宿泊体験事業や修学旅行での生活にも生かされている。

6 課題点

多人数の学習になかなか慣れない児童がいたり、遊びでも多人数の中に入りにくい児童がいたりするので、教師の関わり方が重要である。

それぞれの学校の行事や研究会、出張などで、日程調整が難しいことが多くなっているが、児童にとって交流学習会で得るものは大きいので、定期的の実施できるとよい。

事前の打合せ時間が少なく、授業を担当者だけに任せることが多くなっているので、授業の展開についてももう少し話し合う時間を工夫して生み出せば、より効果的な指導ができるだろう。

一緒に教科学習をする中で、児童の言語活動の充実を図り、多様な考えに触れ、それを広げていく経験をさせたい。